



山形市 退院支援フロー（地域版）

～暮らしの場に帰るためのケアマネジャーの視点～

趣旨・概要

高齢化の進展と、医療と介護の両面を必要とする方々が増えている中、高齢者が入院から退院後の在宅生活まで、切れ目のない支援を受け、ご家族とともに安心して生活を送ることができる体制づくりが必要となっています。

山形市退院支援フロー（地域版）は、高齢者の入退院に係るケアマネジャーとしての基本的な視点と支援のプロセスをフローにしたものです。

ケアマネジャーを中心とした在宅支援者にご活用いただき、入退院時の連絡・調整がより円滑に行われることで、高齢者等が安心して暮らしの場に帰ることができるようにすることを目的に作成しました。

人生の最期まで自分らしく暮らし続けることができる地域包括ケアシステムの一環として、この「退院支援フロー」を活用してください。

山形市
山形市退院支援ルール(地域版)検討チーム
平成29年9月

経 過

山形市では平成27年4月に山形市医師会への委託により「在宅医療・介護連携室ポピー」の運営を開始しました。ポピーによる事業者へのヒアリング、研修・グループワークやアンケート結果、地域包括支援センターの個別相談援助業務から、病院と地域の連携を推進することと、療養者とその家族が在宅で自分らしく暮らし続けることを支えるためには“退院支援に係る一定のガイドラインやツール”が必要であるとの課題を把握しました。

これを受け、平成28年11月に山形市退院支援ルール(地域版)検討チームを組織し、把握した課題へのアプローチとして、円滑な退院支援を推進するためのフロー図をケアマネジャーとしての基本的な視点で作成する必要があると考え、検討を進めました。

■山形市退院支援ルール(地域版)検討チーム開催 13回

メンバー：学識者、保健所、市立病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、基幹型地域包括支援センター、在宅医療・介護連携室ポピー、市

■居宅介護支援事業所とのグループワーク実施

■地域包括支援センター、訪問看護ステーション等へ聞き取り

■むらネット（村山管内医療機関退院支援部署連携会）との情報交換会

■市立病院済生館で行われた医療福祉研修会での共有

■情報提供書は置賜圏域で作成された様式を活用

■完成

今後について

この「退院支援フロー」は多くの実践現場で活用いただき、必要あれば改良を重ね、実践者の方々と共により良いものとして成長させていくものと考えています。さらには、村山医療圏域内の他市町、医療機関との広域的な連携を図り、ルール化を目指します。

留 意 点

- (1) この「退院支援フロー」は、医療と介護の関係者が連携して、高齢者等の円滑な在宅移行を支援するための基本的な流れを示したものであり、実践においては個別ケースに適した柔軟な対応に心掛けることが必要です。
- (2) フロー図及び解説は、在宅医療・介護連携室ポピーのホームページに掲載します。また、関係者により定期的に検証し、必要な見直しを行います。
- (3) 「入院時情報提供書」…利用者が入院した病院に情報提供するために使用します。
「退院時情報収集シート」…利用者の退院時にケアマネジャーが病院から聞き取りし、情報を収集する際に使用します。
それぞれの様式は、置賜圏域で運用した書式を活用しています。推奨する様式であり、積極的な活用をお願いします。

山形市退院支援ルール(地域版)検討チーム メンバー（順不同）

所 属	氏 名
山形大学大学院医学系研究科看護学専攻	大竹 まり子 (チームリーダー)
基幹型地域包括支援センター	中館 のり子
居宅介護支援事業所訪問看護ステーションやまがた	明日 浩子
済生会山形訪問看護ステーション	岡田 陽子
総合福祉施設いきいきの郷居宅介護支援事業所	巻 貴子
地域包括支援センターかがやき	佐川 俊司
山形市立病院済生館地域医療連携室	相田 順子
山形県村山総合支庁保健福祉環境部（村山保健所）	保健企画課
山形市 福祉推進部 長寿支援課	
山形市医師会 在宅医療・介護連携室ポピー（事務局）	徳田 喜恵子
	鹿野 詩子